

まめなけ！新聞

朝日町の皆さん、こんにちは。地域おこし協力隊瀬川大輔です。新川森林組合 朝日支所で林業に従事しています。

朝日町に移住して8ヶ月、2月の大雪から始まり、猛暑下の怒涛の下刈り（草刈り）も終わり、気候的にも落着き作業しやすい時期となりました。周りの方々の助けを借りながら毎日楽しく活動させて頂いています。

さて、皆さんは『立山森の輝き』をご存知でしょうか？

『立山 森の輝き』は、富山県森林研究所が開発したスギの品種です。

日本の林業はスギと言えらるほど、スギは私たちの暮らしの中で様々な役割を果たしてきました。一方で都市部を中心にスギ花粉による花粉症の問題も年々深刻となっています。

この問題に対処すべく20年の歳月を経て研究開発されたのが、花粉を全く飛ばさない無花粉で成長にも優れた『立山森の輝き』です。



【記者・瀬川】

一本一本の手で苗を植えていきます。成長を妨げない様にある程度の大きさになるまで毎年下刈りを行います。その際に草などに隠れてもわかるように棒を立てて目印にします。

こうして僕たちは森を守っています！

＜＜山崎地区内の植栽の様子＞＞



下刈り後（今夏）



植栽直後（今春）



植栽（2000本/ha）

富山県では『立山森の輝き』普及推進事業を進めており、スギ林の伐採跡地への植栽を行っています。私も春先に植栽に従事しました。

夏に下刈り（草刈り）で植栽した現場に再び入りましたが、数ヶ月の間にしっかりと成長をしていました。

一つの木を育てるのに苗を植えてから40〜50年程度掛かると言われます。

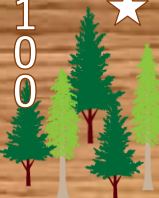
この春に植栽した『立山森の輝き』が5年後にどのような成長を遂げるのか。私自身もその結果を見ることは難しいかもしれませんが、何世代にも渡って木を守り育てることは林業という職業の魅力だと感じます。スギと共に自分も成長できればと思います。

林業は特殊な環境下での作業を伴います。緊張感を持って引き続き任務にあたります。

★発行・お問合せ★

地域おこし協力隊

0765-183-11100



「コメと語る男」

のインタビュアーに成功!

【記者・中村】

ふながわに秋の気配が漂う頃、必ずやって来るのが「コメと語る男」である。黒い小さなトレーに玄米を入れ、優しく語りかけている姿は多くの人が目撃している。
今回、この謎に包まれた男へのインタビュアーに成功した。

「コメと語る男」と呼ばれていますが?

わしゃ、そんなこと言われなくても、学がないからダメやっちゃー

「本当に、コメと語っているのですか?」

コメと語るというよりも、自分に言い聞かせとるんやな。もっと、自信を持ってコメを出せるようにならんと。水管理も、頑張らんとダメや言うて。

「実際にはコメと何を話しているんですか?」

コメの仕上がりを見とるんやな。今年はどうやらかと品質を見とるんや。

「どういった点に気をつけて見てるんですか?」

コメの光沢や青米がどれくらい混じってとるか、それとコメに割れがないかも見とる。



「コメと語る男」は黒いトレーを手に静かに立ち去った。

「今年のコメはどうですか?」
「今年は暑くて雨が少なかつたせいや、ちよつと細かい気がするな。でも、光沢はええし、味も文句ない。」

「コメと語る男」が太鼓判

農事組合法人 ふながわ

新米 販売中!

米

舟川新：由井光美さん

ちいさい

秋 みつけた

【記者・横山】

各地に甚大な被害をもたらした台風が過ぎ去ったある日、町内を車で走っていたら何かを一生懸命拾っている男性を発見! 気になって声をかけてみると男性はこう答えてくれました。

「何を拾っているんですか?」

「クルミ拾つとらよ!」

近々広島から研修に来る大学生にご馳走するそうです。これが朝日町のお・も・て・な・し。

今秋、猛威を振るつた台風は、ここ富山の片隅に小さな幸せを残していきました。



山のクルミは
んーまいんよ!
奥さんがクルミ餅
にすらよ。

笹川地区・長井岩夫さん